

『個』の力の大切さ

マルヤス工業株式会社 常務執行役員
FC マルヤス岡崎 G.M.

土方 健 氏



教育随想

青空の下、目を輝かせてサッカーボールを追いかける子供たち。そのボールの先には、世界で活躍する君の姿が見えるよと、心の中で呼びかけるのが、私の子供たちのサッカーを見ていたときの日常です。

弊社サッカー部FCマルヤス岡崎では、地域貢献活動の一環として岡崎の未来ある子供たちにサッカー教室を開催しています。弊社サッカー部所属選手は、子供たちの純粹無垢な心に触れるたびに、サッカーの楽しさを改めて感じると同時に、試合でのプレーにも好影響を与える相乗効果を生んでいます。その醍醐味を味わった選手たちの有志が集まり、選手生活を終えたあと指導を続けているクラブが「マルヤスFC83Jr」です。現在、幼稚園児から小学六年生の約二百名の子供たちが在籍しており、岡崎地域のサッカーレベルの向上にも努めています。また、昨年より女子チームも活動を開始しました。

子供たちの姿を見て思うことは、サッカーは自分で物事を考えて行動する推進力を自然と高められるスポーツであるということ。仲間がボールを出すときに受け取りやすいボールの軌道は？「仲間がボールを持つてゴールに向かうために自分がとるポジションニングは？」「試合の全体感を捉えてどのように動くべきか？」等、試合・練習中は常に目の前にある課題への対応、一方で視野を広げた対応、試行錯誤を繰り返しています。これにより個々人の判断力・推進力の強さ、『個』の力を醸成しております。またこの経験は将来どんな困難に直面しても乗り越えられる自信にもつながってゆくでしょう。

昨年のW杯での日本代表の活躍は記憶に新しいですが、ベスト八の壁を破るには『個』のクオリティを上げる必要があります。これを重きに置いたプレースタイルをとる選手が



(ひじかた けん)



令和5年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
マルヤス工業株式会社 常務執行役員 FC マルヤス岡崎 G.M.	
土方 健 氏	
この人に聞く……………	2
麵類製造販売業 岩瀬 定徳 氏	
羅 針 盤……………	2
大門小学校 校長 石原 真吾	
ふれあい……………	3
矢作北小学校 教諭 中村 研	
特 集……………	4
家康と同じ時を生きた木 — ふるさとの名木 —	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
姉妹校との交流(昭和54年)	
この本を……………	8



製麺所の灯を絶やさない

麺類製造販売業 岩瀬 定徳氏

深夜二時。いつもと同じように製麺所に明かりが灯る。製麺所の朝は早い。大きな製麺機を隅々まで掃除し、仕込みに入るのが岩瀬氏の日課である。実直な人柄が、長く続く製麺作りにも生かされているのだろう。地元の特産物を使った新麺開発も行う岩瀬定徳氏を訪ね、お話を伺った。

— 岩瀬さんが製麺業を始めるようになったきっかけを教えてください —

昭和二十年。先代にあたる父親が戦地から戻り、故郷である六ツ美の中村町で製麺業を創業したことが始まりでした。その後、昭和二十六年に羽根町に小さな小屋を借りました。これが現在の原型となっています。当時は、親の手伝いで焼きそばを近所に売り歩いていました。また、額田方面にも取引先があり、母親が運転するオート三輪車に乗り、手伝っ

ていました。道路の舗装状態も悪く、車もたびたび故障するので配達は大変でした。しかし、「岡崎から旨い焼きそばが届く」とお客様が待っていてくれることが、子どもなりにやりがいでした。こうして両親の手伝いを続けていたことから、自然と自分も製麺業を始めるようになりました。

— これまでに、どんな苦労がありましたか —

昭和四十八年。大学を卒業し、家庭の製麺業を手伝っていました。そんな時、父親が大病を患い、入院することになりました。その時は、父親から製麺業を受け継ぎ、社長となつて家族や従業員を養うことになってもいい、経営するかもしれないという不安から、夜も眠れませんでした。さらに、時を同じくして、自身も大病を患い、入院することになってしまいました。それでも、父親には心配させたくないという思いから、母親と妻には、父親に秘密にしてみようように頼みました。あの時期に自分を支えてくれた母親と妻には、本当に感謝しかありません。その後、父親が他界し、正式に製麺所を受け継ぐことになりました。

— 製麺業を続ける中で、やりがいと感じることは何ですか —

平成二十六年。藤川町の道の駅の開発に伴い、「むらさき麦」を使った、新麺開発の依頼が来ました。「むらさき麦」とは、藤川町に昔から群生している穂が紫色をした特徴の植物です。江戸時代、松尾芭蕉がその美し

さに惚れ、俳句を詠んだことは有名です。私は、その土地で育ったものを、その土地の人で食す。こんな素晴らしいことは他にない。何よりも長年生まれ育った岡崎に、これで貢献できると思えました。そして、生産者として新麺開発に心が躍りました。舌触りが良くなるようにと、水分量を調節し、何度も試行錯誤を繰り返しました。完成品は道の駅を中心に販売し、大きな反響を生みました。また、そこからむらさき麦が注目を集め、お菓子や学校給食にも使われるようになりました。新麺開発が地域貢献に繋がったと、大きな手応えを感じました。

— 今後について教えてください —

年齢も重ねてきたので、大きなものはありません。ただし、健康でいられる限り現場に立ち続けたいと思います。長年暮らしてきた岡崎はやっぱり好きです。だから、みんなにも好きになつてもらいたいです。これからも、郷土を愛する気持ちと、地産地消への思いは消えませんが、最近では、「むらさき麦めん」に続き「芋麻麺」の開発もしました。今後も、多くの消費者に愛される新商品を開発していきたいです。



氏名 岩瀬 定徳
いわけ さだのり
生年月日 昭和二十六年
一月二六日
住所 岡崎市羽根町

心理的安全性を確保するとは

大門小学校

校長 石原 真吾



大門小学校の研究はつまるところ心理的安全性をどう確保するかの研究であったと思っている。一学期に荒れの様相を呈していたA先生の学級が、二学期のある日から急に落ち着き始めた。その際の手立てが学級集団適応心理検査の結果をもとに熟慮の上決めた、四人チームの座席変更であった。ただ、同じ手立てを講じても、人間関係のひずみを生じる学級も同時に存在していた。なぜか。私たちは先行研究を探した。

エイミー・C・エドモンドソン氏は「フィアレスな組織とは知的集約的な世界にあって、対人関係の不安を最小限に抑え、チームや組織のパフォーマンスを最大にできる組織」と言っており、その土台は心理的安全性であると述べていた。また、青砥瑞人氏は脳内物質ノルアドレナリ

言葉に乗せる



矢作北小学校

教諭 中村 研

「その子に自分の気持ちを伝えることができたの」という私の問いに「できなかつた」とうなだれ、Aさんはつぶやいた。あふれ出る思いをうまく言葉に乗せられず、友達に心無い一言を思わず発してしまったのだ。

Aさんは、言葉で伝えられないときは、手を出すことで自分の気持ちを相手に伝えようとすることもあつた。そのため、周りの子供たちとの思いのすれ違いは少なくなかつた。私はそのたびに、そのいきさつを聞き、自分の気持ちを言葉に乗せて伝えられるように促した。

「そういうことがあつたんだね。Aさんが友達に言ってしまった言葉はよくなかつたけれど、本当は仲良くしたかったことはとてもよくわかるよ」と私が言うと、やっとAさんは

安堵の表情を見せた。「先生と一緒に行くから、自分でBさんに伝えられる」と尋ねると「うん」とうなずいた。たどたどしくはあつたものの、Bさんに思いを伝え、握手を交わした後で、満足感をにじませてはにんだ。そんなAさんを見て、自信をもって言葉を発することができるようになってもらいたいと考えた。

「いいところに線をひいたね」国語科の物語文の授業で、重要だと考えた言葉に指を差すAさんに声をかけた。「この言葉をグループの子に発表してみたら。きつとみんなにとつて新しい発見になると思うよ」と言うと、Aさんは元気に「うん」とうなずいたものの、不安そうな表情で私の顔を見上げた。「発表するのはちよつと心配かな」と聞くと、小さくうなずく。「発表できるように一緒に練習してみようか」と誘うように聞くと、Aさんは繰り返し返さず聞いた。「まず、先生がやるのを見ていてね」「次は、同じように言ってみるよ」「最後は自分だけでやってみよう」話型に沿った練習を繰り返すたびに、何かを確認するかのようにならずにAさん。最後の力強い「うん」で、Aさんの中の不安や迷いが消えたように感じられた。

「この言葉から人物の心情が分かり

ます」Aさんがグループの友達に発言すると、友達からは「確かに」の声が返ってきた。それも複数の方向から。声の数だけAさんの表情がにこやかなものへと変わった。

次の休み時間に教卓を囲んでできた子供たちの輪の奥にAさんの姿が見えた。体や視線はずつと左右に揺らしつばなした。きつと周りにいるすべての友達の顔を見ながら必死に会話をしているのだろう。子供たちの輪が解けると、Aさんは私に向かつて歩み寄り、そして満面の笑顔を浮かべながら口を開いた。

「いっぱい話せた。先生ありがとう」「よかつたね」私がそう答えると、大きな声で「うん」と言つて、友達のところへ駆け寄つた。



ンとドーバミンがバランスよく出て、そこにβエンドルフィンが加わるとワクワク感を伴った集中力が持続し、その土台は心理的安全性だと言つていた。ここにヒントがあると感じた。子どもたちが何でも言える安全・安心なチームを構成できれば、チーム学習によつて子どもたち同士の手で主体的な学習が持続するという仮説がここで生まれた。

しかし、研究会当日。B先生の学級で、中心課題の自身が入つた児童Cのタブレットが、突如動かなくなつた。Cのモチベーションは一気に下がりがり、何も手につかなくなつた。B先生は他の子どもたちに指示を出し、Cの心の乱れに最後までずつと寄り添い支援した。賛否あるこの行為であるが、その後、半年間のこの学級の落ち着いた学習の様子を見ると、Cを優先したB先生への信頼が、この学級の強固な心理的安全性を形作つたと考えている。また、本校職員は日々、五十冊以上に及ぶ個別の支援計画で子どもに願いを込めた教育支援をしてきた。心理的安全性を確保するということは、こうした支援の個別化の手立てによつて、子ども自身がそれを実感することであり、安心感を潤滑油にチーム全員のエンジンが回りだすということなのである。



▲①須佐之男神社の夫婦ヒノキ(切越町)推定樹齢400年

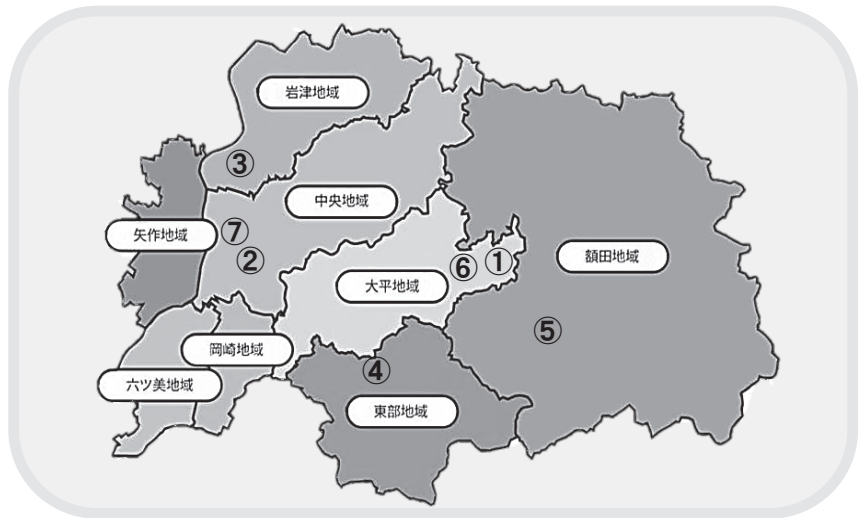
鳥居をくぐり、祠へ続く階段を上る。差し込む日の光に顔を上げると、巨大な千手観音に後光が差しているような光景が目に見え込んでくる。須佐之男神社の夫婦ヒノキ(①)は四百年の長きに渡りこの地にあり続けてきた。令和五年三月現在、岡崎市には、この木をはじめ百六本が「ふるさとの名木」として大切に保存されている。その選考基準には、歴史的価値の高さも含まれる。

その中に、家康公にゆかりの深い木が現存している。家康公の産土神として有名な六所神社の松並木(②)、初陣の際に必勝を祈願した山中八幡宮にあるクスノキ(④)、武田の刺客に狙われたときに命拾いをした逸話をもつ天恩寺の大スギ(⑤)、家康公お手植えの木として伝わる大樹寺のシイ(③)である。

家康公とともに、またその後もこの地で時代を見守り続けてきた木々。その荘厳さに圧倒される。木のもつ歴史、岡崎の歴史の重みが全身に伝わってくるようだ。これらの木の力を感じに、出かけてみてはいかがだろうか。



▲②六所神社の松並木(明大寺町)推定樹齢400年



▲岡崎市地域図と木のある場所



▲⑤天恩寺の見返りの大スギ(片寄町)推定樹齢450年

**「見返りの大スギ」
名前の由来**

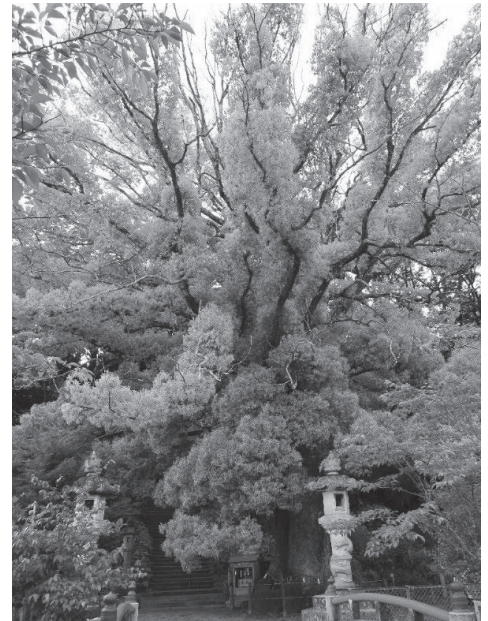
家康公が長篠城に向かう途中、大スギの下まで来たところで、「家康、家康」と呼ぶ延命地蔵の声に気付いた。振り返った家康公は、大スギの影から矢を射ようとする敵の姿を見つけ、すんでのところで命拾いをした。難を逃れたことを大いに喜んだ家康公はそれ以降、出陣する際は、何度も地蔵と大スギを見返りながら戦場へ向かった。これが「見返りの大スギ」と呼ばれるようになった所以である。



▲⑦白山神社の大クス(康生町)推定樹齢400年以上



▲③大樹寺のシイ(鴨田町)推定樹齢400年



▲④山中八幡宮のクスノキ(舞木町)推定樹齢700年



▲⑥古部の大ムク(古部町)推定樹齢500年



●令和五年度の研究発表表

本年度の研究発表表は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が一枚である。

- 市委嘱研究発表校
- ・矢作北小学校(国語科)

生きて働く言語能力を育む国語教育の創造

―「創造・感受・交流」の力を高める国語科授業を通して―

十月十八日(水)

・北中学校(全教科)

自立的に生きるための資質・能力を育む教育の創造

―学び方と学ぶ内容を充実させたチーム学習を通して―

十月二十五日(水)

・六ツ美北部小学校(全教科)

自立的に生きようとする六北っ子の育成

―自ら学び、仲間と学び合う「よつば学習」を通して―

十一月一日(水)

○自主研究発表

- ・新香山中学校(全教科)

ESDの6つの視点で働きか

け、持続可能な社会を創ろうとする生徒の育成

―総合的な学習の時間を中心にした自分事としての学びにおけるESDとGIGAスクール構想のGOOD MIX―

九月十三日(水)

・愛知教育大学附属岡崎中学校

六月二十日(火)

・愛知教育大学附属特別支援学校

十一月十日(金)

・愛知教育大学附属岡崎小学校

十一月十六日(木)

十一月十七日(金)

●表彰関係

◆第7回スポーツクラブ東海杯

〈中学生の部〉

○剣道

男子優勝

女子三位

矢作中

矢作中

◆第30回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト

〈中学生の部〉

○合唱の部

最優秀賞

金賞

竜海中

六ツ美北中

矢作北中



●小中学校のようす

令和五年度岡崎市内の小中学校の概要(五月一日現在)である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が十一名の減少で、中学校が八名の増加となった。通常学級数は、小学校は七学級増加、中学校は四学級増加である。特別支援学級数は、小学校が十一学級増加、中学校は四学級増加である。岡崎市内の小学校の全児童数は、四九三名減少し、中学校の全生徒数は、一四八名増加した。総数では、三四五名の減少となった。

教員数は、一〇二・五名(再任用ハーフは〇・五人としてカウント)の増加となった。そのうち十名が、市任期付教員である。再任用教諭は九十一名(再任校長含む)(実数)である。

教員補助は二七二名、そのうち十八名は養護教諭支援員である。小学校英語指導補助者(ST)は二十六名、外国語指導助手(ALT)は、三十二名である。

●学年別児童・生徒数(人)(令和五年度5月1日現在)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,658	1,802	1,824	1,864	1,902	1,882	1,922	1,971	1,886
女	1,689	1,809	1,676	1,730	1,804	1,869	1,813	1,771	1,764
計	3,347	3,611	3,500	3,594	3,706	3,751	3,735	3,742	3,650

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	457人	556人
通常学級数	733学級	313学級
特別支援学級数	193学級	72学級

●児童・生徒・教職員数(人)(令和五年度5月1日現在)

区分	学校数	学級数 (内特別支援)	児童・生徒(人)			校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用講師(欠員補充を含む) (市内任期付)	養護教諭・職員(人)	事務職員(人)	養護教諭(人)
			男	女	計				
小学校	47	926 (193)	10,932	10,577	21,509	1,250.5 (10)	8	62	49
中学校	20	385 (72)	5,779	5,348	11,127	711	4	29	23
合計	67	1,310 (264)	16,711	15,925	32,636	1,961.5 (10)	12	91	72

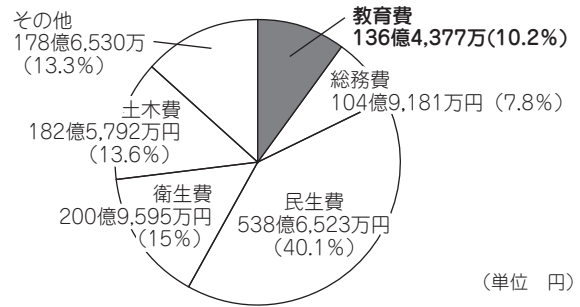
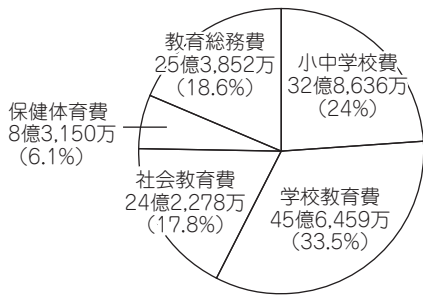
(再任用ハーフは0.5カウント)

令和5年度 岡崎市の教育予算

“家康公愛”“岡崎愛”を深め ひとが輝き まちに賑わいが生まれる予算

〈教育費の内訳〉 令和5年度 136億4,377万

〈一般会計予算〉 令和5年度 1,342億2,000万



(単位 円)

◆ 令和5年度 主な拡充事業

【拡充事業】

- 校内フリースクール (F組) を中学校6校に新設。全市立中学校に拡大。

☆生徒の多様性への対応による長期欠席の未然防止
 ☆教室復帰だけでなく、社会的な自立を目指した支援の充実
 ☆校内フリースクール利用生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
 ☆個の学習状況に応じた指導や配慮の充実

- 全市立小学校4～6年生の普通教室に電子黒板を整備

☆オンライン授業・デジタル教科書・プログラミング学習・サイエンスセミナー等、ICTを活用した質の高い学びの提供

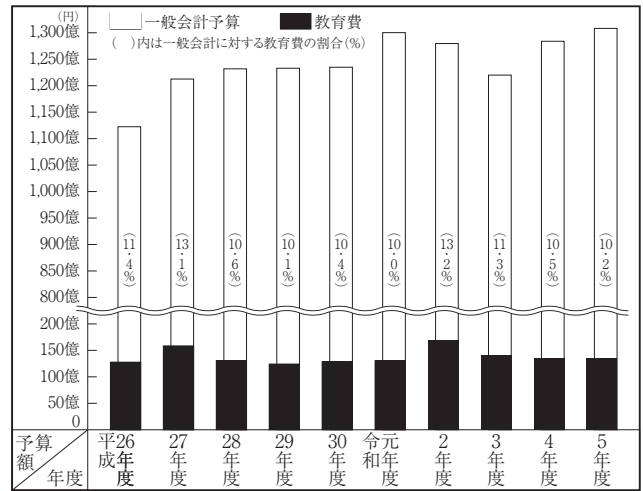
- 岡崎市32人学級プロジェクト 市任期付き教員10名の配置

☆令和5年度は小学校1年生において32人学級が設置され、市任期付教員10名が採用された。令和6年度は2年生にも拡大し、毎年1学年ずつ段階的に市内小学校において32人学級編成を進める。

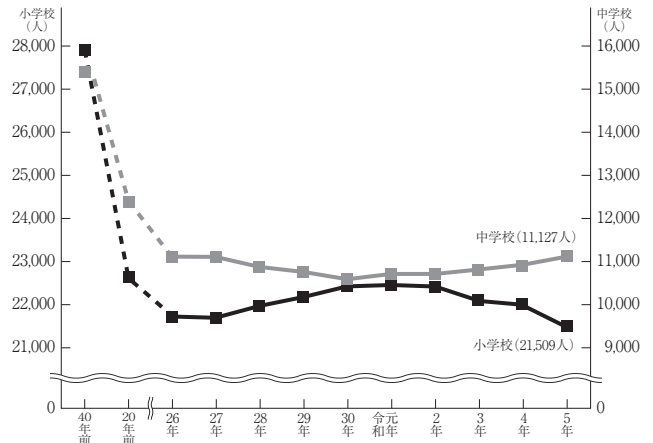
- 市立中学校遠距離通学用電動アシスト自転車購入費の補助

☆通学距離が片道6km以上の市立中学校生徒を対象として、通学に使用する電動アシスト自転車の購入費の一部を補助
 ・補助率：2分の1 (上限4万円)

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移 (数字は毎年5月1日現在)



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

甲
山
中

杉
山
美
咲

姉妹校との交流 (昭和54年)

写真提供：奥殿小学校

沖縄県石垣市立大浜小学校と姉妹校となり、初めての訪問団を迎えた際の記念撮影の様子である。講堂で行った交歓会では、歌や楽器演奏で訪問団を歓迎した。

両校の交流は五十年以上続き、平成二十二年からは、訪問の頻度が三年に一度となり持続可能な形に変更した。コロナ禍となつてからはオンラインでの交流を行い、形を変えながらも絶えることなく継続してきた。本年度からは訪問による交流を再開する予定である。

姉妹都市や姉妹校との交流は、児童・生徒に異なる文化や風土、気候に触れるよい機会である。姉妹都市や姉妹校の良さを知るとともに、ふるさと岡崎の文化・風土の良さを再確認する機会でもある。



当代までに重ねてきた樹齢は四百有余年。足を止めてそれらの木を見上げると、歴史の重みに圧倒させられる。

家康生誕の地、岡崎市の魅力は、神社や仏閣などの歴史的建造物のみならず、こうした自然の中にも多く詰まっている。時には、名木探しの散策に出かけ、それらを感じる心の余裕をもちたい。

どホ

水無目



▲梅の実取り(常磐東小)

梅雨の夜空に光を灯して飛び交うホタル。薄闇をほのかに照らすホタルの、小さくも力強い光が子供たちのこれからの未来に重なる。

コロナ禍に手探りで進めてきた教育活動に、おいても、私たち教師は子供たち一人一人の輝きを支えていきたい。



*聞く技術 聞いてもらう技術 東畑 開人
ちくま新書 ¥946

心に残った一文

「聞く」は「聞いてもらう」に支えられています。

臨床心理士である著者は、「心の奥底に触れるよりも、懸命に訴えられていることをそのまま受け取る方がずっと難しい」「人の話を聞けないのは自分の話を聞いてもらえていないから」と説く。

学校現場でも「聞く」ことは大切である。「聞く」ことは相手の心に作用する。聞いてもらう側にとって、誰かが自分の思いや考えを理解してくれたと思うだけで、現実を変えていこうとするパワーが生まれる。「聞く」「聞いてもらう」の循環を目指し、他者の訴えを言葉そのものとして受け取ることを心がけたい。本書は、そんな「聞き合う」ことの力の重要性に気づかせてくれる。

- *教室マルチリトメント 川上 康則
東洋館出版社 ¥2,000
 - *じっくりとことん考え抜くための「10のレッスン」 植原 亮
ダイヤモンド社 ¥1,600
 - *教養のある人がしている、言葉選びの作法 齋藤 孝
ばる出版 ¥1,400
- 宮崎小 佐橋 康仁